

## 卒業制作企画書（メンター依頼用）

### 1 自己紹介

Sapporo\_DEV4 期の甘田悠です。出身地は群馬県で大学に入学すると同時に北海道に住み始めました。今は北海道大学の獣医学部に所属しております。プログラミングに関する知識はほとんどない状態で Gs に入学しました。入学した理由としては、獣医の卵として、獣医側からだけでなく、IT の面からも関わることでより多様な視野を持てるようになりたかったからです。また、将来的に起業も視野に入れたいと思い入学しました。

### 2 卒制企画書

#### 2.1 サービス概要

サービス概要に関しては、一言でいうと「ペットオーナーを動物病院へと繋げるプラットフォームとなる動物に特化した投稿アプリ」です。

内容としては、登録していただいたペットオーナーは、ペットの動画や画像を投稿していただくのと同時に日常的な記録をしてもらいます。また、病気など具合が悪くなった時にも、その状況や行動を投稿してもらい、情報を共有してもらいます。投稿に対してコメントを行ってもらうことによって、動物病院へと向かう判断の助けとしてもらいます。動物病院側にも登録をしていただき、患者さんとして来院したときに、投稿内容を確認して日常的な情報や視覚的な情報を得ることで診断の補助としていただきたいと考えています。

#### 2.2 Who/What

ターゲットとしては、ペットオーナーと動物病院の獣医師を考えています。

ペットオーナーは、飼っているペットが病気にかかってしまっても、動物の病気の前知識の全く持っていないことが多く、異常のありそうな行動から何が悪いのかわからず、うまく調べることができない状況にあります。

動物病院では、症状の状況を飼い主の口頭の説明だけの主観的な情報だけを話してしまい、症状に関する視覚的な情報やストレスのない日常的な情報といった客観的な情報が不足している状況にあります。

#### 2.3 How

これらの課題を解決するアプリの内容を説明していきます。

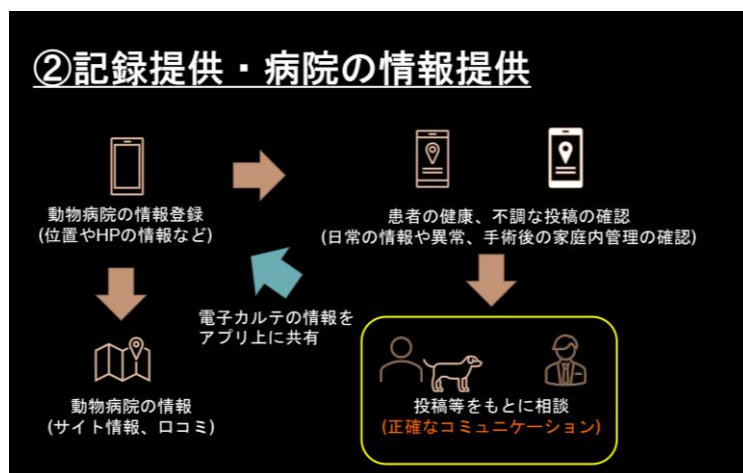
まず、ペットオーナーは個人情報とペットの情報をアプリに登録してもらい、日常的に自分のペットの動画を投稿してもらうと同時に、ほかの投稿を見て楽しみながらアプリを利用してもらいます。そして、動画を投稿してもらう

際に、日常的な情報(餌の内容、排泄物の画像、活動状況など)も併記してもらって投稿してもらいます。

体調が悪くなったと思ったら、悪化した時のフォームに移動して、悪化した状況を投稿してもらいます。投稿内容に、似た症状に関する経験のある人や獣医師からのコメントができるようにし、病院に行くべきなのかを判断することができるようになります。



動物病院も、病院の情報を登録していただき、投稿内容や患者の情報を閲覧できるようにします。患者の日常的な情報や視覚的な情報から診断に役立ててもらい、異常な行動や病気などを電子カルテとして入力していただき、すでにある情報と紐づけます。



このアプリにより、ペットオーナーはペットの状況を投稿しながら、病気になったときに病院に行く判断の助けになります。また、動物病院は、日常的な情報に加え、客観的な情報を得られるので診断に役立ちます。また、獣医師は手術後の自宅での管理などが視覚的なものとして得られるため、電話の連絡な

どでのコミュニケーションの助けになります。

選択言語として利用しようと考えているのは、HTML、CSS、JavaScript、PHP(laravel)です。

## 2.4 Why me

獣医学部の学生として一つでも多くの命を救いたいという思う反面、病気ではなく、ペットオーナーの判断が遅くなってしまうたり、病気に対する認識が甘かったりすることで命を落としてしまう動物がいます。また、ペットを飼っている方から病気の状態がわかりにくく、動物の病気のため調べても調べにくいという意見もあります。病気ではなく、飼い主からの認識を変え、少しでも早い段階で動物に治療を受けさせてあげたいという思いがありました。そして、動物病院側では、口頭での説明をしていただくため、すべて主観的な情報になってしまい、客観的なものではないと感じていました。その結果、診療を行う際、意見の食い違いが起こることが多々ありました。自分がやる理由としては、自分は獣医学生なので、ほかの方よりも獣医業界における知識を持っています。また、獣医師とのつながりも持っているため協力も得られやすいと考えています。

## 2.5 今後について

このアプリを長く使っていくことによって、多くの情報が蓄積していきます。その情報には大きな価値があり、ペットの一生の情報が入っているといっても過言ではありません。その情報をペット保険会社やペットフード会社、研究機関などに提供することにより、資金や物資をいただくことも考えています。

また、このアプリが普及したら、多頭飼育崩壊などの問題を早い段階で解決することできる可能性が高いこと、マイクロチップにおける情報に加えることでペットの病気などのペット自身の情報をより詳細に取得できることなどペットにとって有益な社会に向かっていくと考えています。

卒業政策企画書の説明は以上になります。まずは、ペットオーナーと病院をつなげ、病院へと向かう判断の助けとなると同時に、より客観的な情報を共有できるアプリを作りたいと考えています。共感していただけて、メンターとして引き受けていただけたら幸いです。よろしくお願い致します。